

ドライテック 施工要領書

[トップコート仕上]

株式会社 フッコー

《機材 ローラー施工の場合》

- ・ハンドミキサー

《道具 ローラー施工の場合》

- ・テンタル
- ・ローラーハンドル
- ・ローラーバケット（ネット）
- ・ローラー（毛丈：30mm～40mm）
- ・刷毛
- ・ローラーハンドル用継ぎえ

推奨ローラー（大塚刷毛製造㈱ ウーローラーA 毛丈：40mm、PEACH 毛丈：30mm、NEO ひばり 長毛 毛丈：40mm 等）

4. 材料一覧・発注

製品名	材料	塗回数	水希釈/セット	塗布量/m ²	塗布面積/セット
ドライテック トップコート	主材（紛体）：4kg/袋 専用樹脂：8kg/缶 添付顔料：0.16 or 0.3kg/袋 （12.16 or 12.3kg セット）	2	3.0～4.5kg	吹付施工 0.7kg 程度 （0.35kg×2）	吹付施工 20～24 m ² 程度
				ローラー施工 1.4kg 程度 （0.7kg×2）	ローラー施工 10～12 m ² 程度

※ローラーでも施工可能ですが、綺麗な仕上げを望む場合は吹付施工を推奨いたします。

※添付顔料は、3. アッシュグレーのみ 0.16kg、その他は 0.3kg となります。

※特注色の場合は、添付顔料はありません。顔料は、主材（紛体）への既調合となります。

《添付顔料》

色番	1	2	3	4	5	6	7	8
色名	ラインホワイト	ニューグレー	アッシュグレー	チャコールグレー	ハニークリーム	モカ	レミアブラク	パンク
荷姿	0.3kg/袋	0.3kg/袋	0.16kg/袋	0.3kg/袋	0.3kg/袋	0.3kg/袋	0.3kg/袋	0.3kg/袋

5. ドライテックトップコート材料調整

ドライテックトップコート専用樹脂 8kg/缶に主材（紛体）4kg、添付顔料 0.16 or 0.3kg と水 3.0～4.5kg を投入し、ハンドミキサーで 3 分間程度、十分に攪拌して使用して下さい。材料が沈降しやすい為、攪拌しながら使用して下さい。

※特注色の場合は、添付顔料は不要です。

6. ドライテック トップコート仕上施工手順

《吹付施工の場合》

①施工準備

ドライテックダイレクト仕上の打設（ドライテックダイレクト仕上施工要領書参照）から翌日以降、仕上がった面の密着していない石をブロワーや箒、手で取り除いて下さい。

②ドライテックトップコート1回目

調整したドライテックトップコート材をガン器で均一に塗布して下さい（下図参照）。

（塗布量 0.35kg/m²程度）

※地面に対して真上から吹き付けるようにして下さい。

③ドライテックトップコート2回目

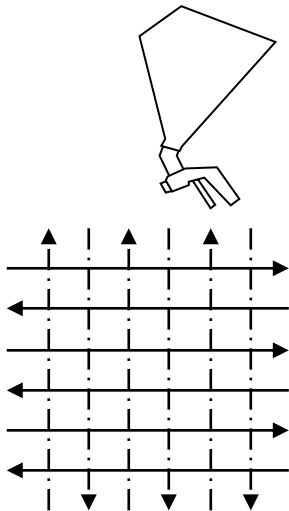
1回目乾燥後、調整したドライテックトップコート材をガン器で1回目とは反対方向から均一に塗布して下さい（下図参照）。

（塗布量 0.35kg/m²程度）

※地面に対して真上から吹き付けるようにして下さい。

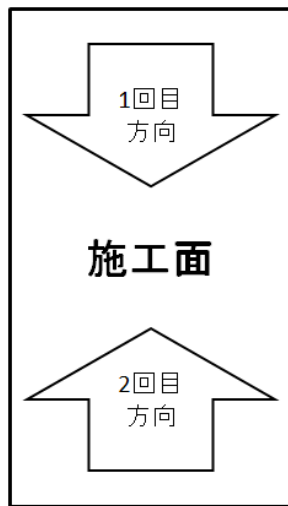
【ドライテックトップコート吹付方法】

※十字に均一に吹き付けて下さい。



【ドライテックトップコート吹付方向】

※2回目は、1回目とは反対方向から吹き付けて下さい。



【施工、仕上り】



《ローラー施工の場合》

※ローラーでも施工可能ですが、綺麗な仕上げを望む場合は吹付施工を推奨いたします。

①施工準備

ドライテックダイレクト仕上の打設（ドライテックダイレクト仕上施工要領書参照）から翌日以降、仕上がった面の密着していない石をブロワーや箒、手で取り除いて下さい。

②ドライテックトップコート 1回目

調整したドライテックトップコート材をローラーで均一に塗布して下さい（下図参照）。
（塗布量 0.7kg/m²程度）

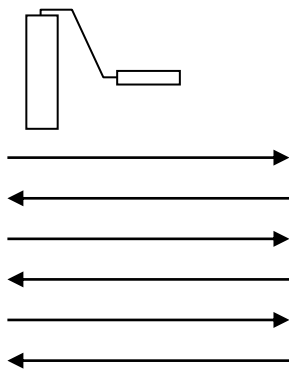
※ローラーで塗布できない端部、凹部は、刷毛で塗布して下さい。

③ドライテックトップコート 2回目

1回目乾燥後、調整したドライテックトップコート材をローラーで均一に塗布して下さい（下図参照）。

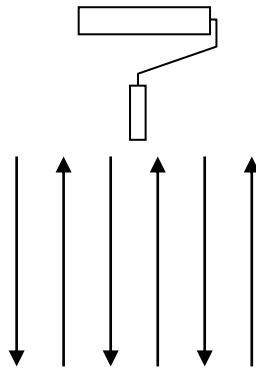
（塗布量 0.7kg/m²程度）

②ドライテックトップコート 1回目



③ドライテックトップコート 2回目

1回目とは、90°反転して塗布して下さい。



仕上り



※仕上がり表面の凹凸状況や骨材の詰まり具合によって、伸び数量に変動がございます。

※透水性のために、多量に施工しても塗料が下層へと流出します。伸び数量を参考のうえ施工されるようご注意ください。